

平成 27 年度 県立岩井高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化の激しい社会をたくましく生きていくための「生きる力」を育み、心身共に健康な地域や社会に貢献できる人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒ひとりひとりの興味・関心や適性に応じた進路実現ができる学校 (3) 地域の教育的ニーズに応え、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>授業研修の校内体制の基礎形式を作成し、生徒理解を深め、授業改善に向けた取り組みがスタートできた。</p> <p>進路指導面では、1 学年からの進路別見学会や参加型のガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導の実践をさらに進めた。120名を超える就職希望者に対し、97.7%の内定率であった。進学希望者については課外指導を充実させ、若干名ではあるがセンター試験利用入試や一般入試で合格できた。入試に対応できる学力を養成していくことが課題である。</p> <p>特別活動では、生徒たちの積極的参加によって、特に体育祭において自主性が発揮され、達成感や学校への帰属意識が育まれた。また、部活動においては、写真部の全国大会への出場など文化部の活動も見られたが、加入率の増加には課題が残った。</p> <p>地域との連携においては、相互の授業参観等で地域の中学校との連携を図り、文化部を中心とした地域行事への参加によって地域社会との交流を進め、一定の成果があったが、本校の良さを理解していただく情報の発信を工夫し、志願者の増加につなげるのが課題である。</p>	<p>ア 学力を向上させる諸指導の実践</p>	<p>① 主体的学習態度を養い、思考力、判断力、表現力を高める授業の改善を図る。</p> <p>② 小テスト等の導入により学習体制の確保と学習意欲の喚起を図る。</p> <p>③ グループ学習の活用などにより中学校からの継続性を図る。</p> <p>④ 各種検定試験の合格者やセンター試験利用による合格者を増加させる。</p> <p>⑤ 学習課題を工夫することによって、自宅学習時間を確保・増加させる。</p>	B
	<p>イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実</p>	<p>⑥ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化をさせるため個別面談の充実を図る。</p> <p>⑦ インターンシップやキャリアカウンセリング等の地域と連携した体験活動により生徒の進路意識を高める。</p> <p>⑧ 基礎力の定着や学習能力の向上を進める課外体制の充実を図る。</p> <p>⑨ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。</p> <p>⑩ 保護者に積極的に情報提供を行うとともに、参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。</p>	A
	<p>ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開</p>	<p>⑪ 学校生活を通し自らを律するとともに、他者との協調性を培う。</p> <p>⑫ 組織に所属する自己肯定感を高め、校歌を歌うことなどにより母校愛を育成する。</p> <p>⑬ 各種講演会や面談を通し生徒の事故等の未然防止に努め、問題行動や転退学者数を減少させる。</p> <p>⑭ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。</p>	A
	<p>エ 学校組織の活性化</p>	<p>⑮ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・実践する。</p> <p>⑯ 各部活動の加入率を高める。</p> <p>⑰ P D C A サイクルを活かし生徒・教師の実践力を高める。</p> <p>⑱ 教務部・情報管理部を中心にホームページや学校通信等により、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。</p> <p>⑲ 地域の小・中学校と連携協力した取組を通して信頼関係を再構築し、志願者増につなげる。</p> <p>⑳ 学校・教員の自己評価活動を促進する。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の確実な定着および向上を図る	「分かる授業」を展開するため、系統的な指導内容になるよう工夫する。ア①	A	・ホームルーム等で担任が活用できるよう、進路学習に有効な教材や学習課題を提示していく。
		小テスト等を有効に活用し、定着度を把握しきめ細かな指導の推進を図る。ア②	A	
	生徒の実態に即した授業展開を行う	内容を精選した題材を用い、生徒に興味関心を持たせる。ア①	A	
		基礎力の定着を図るとともに、学力に応じた目標を設定する。ア①	B	
	生徒の進路希望に応じた国語力の定着を図る	通常課外・土曜課外を定期的に実施し、上級学校への進学に対応できる学力の定着を図る。イ⑧	B	
地歴・公民	生徒の実態に即した授業展開を行う	単元毎に目標を明確に提示する。ア①	B	・生徒による課題探究型学習を取り入れ、グループ学習、発表、ディベート等「公正な判断力」を養う授業方法、展開を工夫する。 ・主権者教育として、模擬選挙や議会傍聴等、実践的・体験的な政治的教養の育成を図る。
		生徒の実態に即し、教科内容を精選した資料や例を提示する。ア①	A	
		新聞・雑誌・インターネット・DVDなどの教材を活用する。ア①	B	
	生徒が意欲的に参加できる授業を行う	グループ学習やレポートの発表など生徒参加型の授業形態を取り入れる。ア①③	B	
状況に応じた発問を行う。ア①		B		
基礎力の向上を図る	ノート・問題集など整然とまとめさせる。ア①	A		
	フィードバックしながら関連事項についての理解を深める。ア①	A		
数学	基礎学力の向上を図る	「わかる授業」を展開するため、板書、発問の仕方、課題プリントなどを工夫する。ア①③	B	・生徒が、授業に積極的に参加し、かつ関心が持てるように、授業方法、展開を工夫していく。 ・基礎・基本、反復学習を徹底する。また進学や公務員希望者の実力の向上を図る。
		放課後や長期休暇中の補習を活用し、理解度の低い生徒に対応する。ア⑤	A	
	問題を解く力を養う	生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、課外なども利用し演習させる。ア①④	B	
		問題演習時間を十分に確保し、やる気を喚起する指導を行う。ア①⑤	B	
授業時の理解度を把握する	机間指導や問題集・ノートなどの点検により理解度の把握に努める。ア①	B		
	小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア②	B		
理科	基本的学習内容を定着させる	「わかる授業」を展開するために、板書、補助教材教具を工夫する。ア①	B	・生徒が、授業に積極的に参加し、理科に関心が持て、さらに自ら学ぶ姿勢がみられるよう、授業方法、展開を工夫していく。
		授業中に「小テスト」等を実施し、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア②	A	
	理科への興味・関心の高揚を図る	ビデオやDVD、ITを活用して理科への興味・関心を高める。ア①	B	
		観察・実験を計画的に実施し、科学的な探究心を身につけさせる。ア①	B	
観点別評価の推進	教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア①	B		
	指導の改善を常に意識することで、生徒の学習意欲の高揚を図る。ア①	B		
保健体育	単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する	単元ごとの具体的な目標を提示し授業を展開する。ア①	A	・生徒の体力や運動能力には個人差はあるが、集団の中で個人の責任を果たし、仲間と連携することによって運動の楽しさを味わえるよう工夫していく。 生涯を通じて自らの健康を管理することができる能力の育成に努める。
		視聴覚教材を有効活用する。ア①	B	
		運動能力の把握と個に応じた指導を充実させる。ア①	B	
	時間や約束事の厳守、活動時間の確保と授業内容の充実を図る	授業開始時間を守らせる。ウ⑩	A	
		挨拶の励行、運動に適した服装や態度を身につけさせる。ウ⑩	A	
運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	種目ごとのルールを理解させる。ウ⑪	A		
	授業後のうがい、手洗い等健康面や衛生面について指導する。ウ⑩	A		
	運動と休養をうまく組み合わせ、健康を保持増進する能力を高めさせる。ウ⑩	A		
芸術	基本的な技能を習得させる	基本練習を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア①	B	・基本的な表現技法を習得させることを課題とし、個々に応じた指導とレベルに添った指導を重点とする。表現する楽しさ、美意識の向上、創造性豊かな表現技法の育成に努める。
		机間指導を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①	A	
	のびのびとした表現活動ができるようにする	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア①	A	
		実技研修に努め、生徒の実態に即した支援を行えるようにする。ア⑤	A	
教室環境、用具の整備、管理を充実させる	教室環境を整え、活動意欲を喚起する。ア⑤	B		
	用具の整備、管理を十分にし、わかりやすく、楽しい授業につなげる。ア①	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題		
教	外	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション英語Ⅰにおいてはティームティーチングによる習熟度別少人数制授業を行い、生徒一人ひとりの理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア①	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望の生徒に対して基礎学力の定着を図り、演習を取り入れた指導の充実を努める。 ・「協同的な学び」の喜びを実感させる授業の工夫を努める。 	
			パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着を図る。ア②、イ⑧	A		
			同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①	B		
	国	家庭学習の習慣を身につけさせる	定期的に課題を提示し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア⑤	B		
			特進・進学クラスにおいては週末課題を課し、大学進学のための基礎作りを行う。ア⑤	B		
	語	授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	ALTとのティームティーチング等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①③	A		
			グループ学習やペア学習を導入することによって、「協同的な学び」の喜びを実感させる。ア①③	B		
			パワーポイントやDVDなど視聴覚教材を使い、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア①	B		
	家	生活に必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させる	生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため新聞記事などの新しいトピックを利用する。ア①	A		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため、興味関心を持って取り組める教材の研究をする。 ・専門科目フードデザインの実習はTTを基本とし、事故防止に努める。
			調理検定4・3級の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受検意欲を高める。イ⑧⑨	A		
			DVDや掲示資料を工夫し、興味関心を深めると共に理解しやすい指導に努める。ア①	A		
		庭	実験実習を中心としたわかりやすい授業を展開する	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア③④		
グループ学習の指導を工夫し、調理実習などの実践的活動を意欲的に行えるようにする。ア③				B		
生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①				A		
家庭	家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	ホームプロジェクトを夏休みの課題とし、家庭生活の充実向上に努める。ウ④	B			
		研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①エ⑩	B			
科	商	簿記の基本的な知識と技術を習得させる	各帳簿の記入の必要性を理解させ、帳票の記録・計算・集計を反復練習させる。ア①④イ⑨	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目で学ぶ知識・技術の基礎・基本の理解と習得を徹底させる指導に努める。 ・資格取得の重要性を生徒に理解させ、意欲的に取り組ませる指導を行い、合格率を上げていきたい。 	
		電卓・パソコン技能を身につけさせる	電卓・パソコンの操作方法と基本技能を習得させる。ア②④イ⑨	A		
	業	ビジネス活動で必要とされる能力と態度を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよう望ましい心構えや態度を身につけさせる。ア①②	B		
			ソフトの基本操作を身につけさせる	代表的な文書作成ソフトの基本操作を一通りできるようにする。ア①⑤		A
	情	報	表計算ソフトを利用して、書類を作成できるようにする。ア①⑤	B		
			ソフトを用いて、タイピングの習得率80%を目指す。ア①⑤	B		
情報を活用するための工夫をする			情報機器の種類と特徴を実習を通して指導する。ア①⑤	A		
情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける		生徒自身が方法を模索したり、グループ学習を通して協力し合う体制を作る。ア③	A			
		インターネットの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤	A			
		ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務	授業に取り組む態度を身につけさせ、学習意欲の向上を図る	新学習指導要領において重視されている「言語活動の充実」について周知を図り、指導方法の改善に努める。ア①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価と連動した指導方法の研究を進める。 ・観点別評価の学年進捗が昨年完成年度となったが、評価方法の工夫改善については継続する。 ・29年度入学生より予定している学校設定科目を取り入れた教育課程導入の準備を進める。
		研究授業を企画し、教員の授業研究を推進することで、生徒理解を深めて授業形態や学習教材等の工夫につなげ、生徒の学習意欲を向上させる。エ⑱	C	
		課題の提示方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。ア⑤	B	
	観点別評価を推進し学習評価の改善を図る	観点別評価を含めたシラバスを活用し、評価方法の工夫改善に努める。エ⑱	B	
		生徒の実態に応じた学習評価の改善や指導の改善を全教科で取り組むことを支援する。エ⑳	B	
		各教科との連絡を密にし、学期末や学年末の学習評価が適切に行われるようにする。エ⑱	B	
教育課程の適切な実施と改善を図る	教育課程の適切な実施に向けて、年間行事、時間割、日課、単位時間等の弾力的な運用を図る。エ⑱	B		
	学校の特色づくりや志願者数増加のための「魅力ある教育課程」編成の研究を推進する。イ⑨	B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	朝の登校指導を含め、生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑪	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導を含め、生徒に積極的に声をかけ服装・態度について社会通念上妥当なレベルを維持できるよう継続指導する。 ・丁寧な言葉を指導し場面に応じた言葉遣いができるよう指導する。 ・交通安全意識を高めるための自転車点検の実施とバイク通学者に対する実技指導を実施する。 ・問題行動未然防止のために行った交通安全講話、薬物乱用防止教室、スマホ・ケータイ安全利用教室は予防に効果があった。
		校外での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。ウ⑪⑫	A	
	場面に応じた対応ができる生徒の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑪	B	
		ていねいな言葉遣いができるよう指導する。ウ⑪	B	
		集会等の全体行動を通して自主性を育てる。ウ⑪	A	
	交通安全指導の充実	自転車通学者の安全意識を高める。ウ⑬	A	
		バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑬	B	
	問題行動の予防	各種巡回指導を実施する。ウ⑬	A	
		交通安全講話、薬物乱用防止講話、ケータイ・ネット講話等の各種講話を実施する。ウ⑬	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努める	自主的行動を意識させ、生徒自身が律する能力を高める。ウ⑪	B	
「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。エ⑱		A		
いじめ発生時に早期解消に努める	当事者およびその保護者に適切に対応し、断固としていじめをやめさせる。ウ⑬	B		
いじめの件で関係機関との連携を密にする	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じて警察等にも相談する。ウ⑬	A		
いじめに関する教員研修を行う	研修を実施し、対応方法の共通理解を図る。エ⑳	A		
進路指導	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を喚起し家庭学習時間の確保や授業・課外指導の充実を図り、基礎学力の定着に努める。 ・学習指導や諸活動のあらゆる場面でコミュニケーション能力を高める工夫に努める。 ・学年間の情報共有を促進し、効果的なキャリア教育体制の確立を目指す。
		効果的な模擬試験の実施・課外指導の充実により、学力の向上に努めるように動機付けをする。イ⑧	B	
		進学希望者はセンター試験を目標とし、受験勉強に取り組ませる。ア④	B	
	個々の進路希望に応じた指導の充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑥	A	
		インターンシップ等の地域と連携した活動により、主体的な職業選択ができるよう支援する。イ⑥⑦	A	
		入社試験・入学試験の際に求められる、コミュニケーション能力や人間性・社会性を養うため、模擬面接や個別指導を行う。イ⑥ ウ⑪	A	
	より良い進路選択のための、教職員・生徒及び保護者との連携の強化	就職内定率100%および志望校への進学を達成させ、外部へ情報を発信する。エ⑱⑲	B	
		P T A総会、面談や進路説明会等の機会を通して進路情報を発信し保護者への啓発を図り、進路実現に向けての理解と協力が得られる態勢を整える。イ⑦ エ⑱	B	
	教員対象の説明会や研修会への参加を促し、進路情報を共有すると共に教員のモチベーションを高めて生徒に還元する。エ⑱	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健 厚生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑪	A	A ・今年度、坂東市の担当者の協力を得て防災訓練を実施したが、5年前の東日本大震災や、9月に発生した関東東北豪雨による河川決壊等を考えると、今後も地域と連携した訓練を継続、充実させる必要がある。
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。ウ⑫	B	
		清掃用具の在庫等の確認と各清掃区域の用具を整備する。ウ⑫	A	
		大掃除やクリーンプロジェクトの機会を利用し、清掃活動の向上を図る。ウ⑫	A	
	防火・防災訓練	より具体的なマニュアルを作成し、非常時に役立つ訓練を行う。エ⑮	A	
保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮	A		
	環境整備活動への協力、ECO活動推進等（厚生）。エ⑮	A		
特別 活動	生徒一人ひとりが生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑭	B	A ・今年度は昨年度から継続しての担当職員が極めて少なく、運営に支障が発生する恐れがあった。このような事態を想定して、初めての担当者でも戸惑うことなく業務遂行するための資料を作成・保存したい。
		学校行事を通して、成就感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を支援する。ウ⑪	A	
	生徒会活動の活発化	本部役員に「生徒の自治」という事を意識させ、その頂点にいる自覚と責任を持たせることにより、主体的に活動できるようにする。エ⑮	A	
		「各クラスでの話し合い→評議委員会→生徒会行事」という形を確立する。エ⑮	A	
	部活動の活性化	生徒の自主的・自発的な活動を支援する。エ⑮	B	
		部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑯	A	
部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を40%以上にする。エ⑯		A		
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。エ⑰	A	A ・図書委員の中に視聴覚係を設け、研修会等を行いスムーズに活動できるようにする。 ・図書委員を更に自分で考え行動していくように育成し、県主催の研修会に積極的に参加させたい。
		図書委員会の活動と新着本の情報を月1回以上、ホームページで更新する。エ⑱	A	
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。ウ⑪	A	
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。エ⑮	A	
		図書委員が広報紙『ポプラ』を行事毎に発行できるように、係職員が指導する。エ⑱	A	
		図書委員会の活動を活発化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。ウ⑪	B	
視聴覚機器・資料の充実と有効利用	HRや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。ア①	A		
視聴覚機器の保守と整備を充実させる。ア①	B			
渉 外	P T Aの活性化を図る	P T A総会およびP T A関係行事の出席率を8割以上にし、共通理解を深め、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。エ⑱	B	B ・資料等の個人情報の保持に細心の注意を払う。 ・P T A総会、役員会などの行事の能率的な計画と運営に努める。
	学校・家庭・地域との連携を深める	県高等学校P T A連合会、県西部地区高等学校P T A連合会の情報を保護者に提供するように努める。エ⑱	B	
	広報活動の充実を図る	P T A会報の発行により、学校の概況を発信し、保護者に興味、関心を持って読まれるような紙面作りをする。エ⑱	B	
情 報 管 理	学校内外への情報発信の推進	学校ホームページのスタイルの改訂と発信内容の更なる充実を図る。エ⑱	A	A ・情報部が教務部と統合するため、成績処理・ホームページ制作の仕事等を工夫していく必要がある。 ・教職員の情報機器関連の知識や技術の向上を図る。
		学校新聞「双峰」の掲載内容を見直し、年間6回程度発行する。エ⑱	A	
		学校情報配信システムを推進し、生徒や保護者への迅速な情報発信体制を作る。エ⑱	A	
	成績管理等システム化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理する。エ⑰	A	
		新しい成績管理システムの構築を推進する。エ⑰	A	
情報セキュリティ対策の推進	個人情報の保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の高揚を図る。エ⑳	B		
	情報管理部職員のセキュリティ対策について技術を高めるための研修を推進する。エ⑰	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	チャイム着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	C	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを律する力を育てることにより、基本的な生活習慣を確立させていくことが必要である。 ・基礎学力向上の支援方法を探求・実践することで、学力向上を目指す。
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑧	B	
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	B	
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑪	B	
		教室内の生徒私物の管理を徹底させる。ウ⑪	B	
		公共の場や公共物を大切にすの心育成に努める。ウ⑪	B	
	基本的生活習慣の確立を図る	服装・頭髪に関する全体および個別指導を徹底し、自らを律する力を育てる。ウ⑪	C	
		挨拶の励行に努める。ウ⑪	B	
		時間を守る態度を育てる。ウ⑪	C	
		常に制服を正規着用できるように声かけしていく。ウ⑪	C	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑪	B	
		言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑪	B	
他者への思いやりの心を育てる。ウ⑪		B		
生徒各自が役割を意識し、その責任を果たせるよう働きかける。ウ⑪		B		
第2学年	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	服装・頭髪に関する全体および個別指導を徹底する。ウ⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識を向上させ、個々の進路実現に向けて、適切な情報と効果的な指導をする。基礎学力の定着に努める。 ・最高学年としての自覚を持たせ、規律ある行動、当たり前前が当たり前前行動できるようにする。
		欠席・遅刻指導を徹底し、時間の大切さを理解させる。また、家庭との連携・協力体制を作る。ウ⑪	B	
		挨拶や言葉遣い、問いかけに対する誠実な返答等礼儀指導に努める。ウ⑫	C	
	誠実な学習態度の確立を図る	チャイム着席・授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	C	
		基礎学力の定着のため、小テストや進学者向けの課外を定期的実施する。ア②	B	
		適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	B	
	学校組織の活性化を図る	中堅学年として部活動の継続参加を働きかける。エ⑩	B	
		修学旅行において沖縄の文化に触れ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ばせる。エ⑮	B	
		クラスマッチ・体育祭・野球応援を通じてクラスや学校に対する帰属意識を育てる。エ⑮ウ⑫	B	
	個に応じた進路指導の充実を図る	進路ガイダンスやHR指導により、効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑩	B	
		社会の一員としての自覚と希望を育て、インターンシップを成功させる。イ⑦	B	
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑧	B	
第3学年	基本的生活習慣の確立を図る	生徒自身の自覚を促しながら、服装・頭髪指導を行い進路実現の手だてとし、自律心を育てる。ウ⑪	B	
		時間に対する意識を高め、欠席・遅刻を減らす。また、家庭との連携協力体制を作る。ウ⑫	B	
		挨拶や言葉遣い等の礼儀指導に努める。ウ⑪	B	
	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	始業前の着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	
		適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	B	
		学力定着のため、平常・土曜課外を定期的実施する。ア②⑤イ⑧	B	
	個に応じた進路希望の実現を図る	総合の時間を計画的に実施し効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑥ エ⑮	A	
		就職内定率100%を目指す。また、大学進学希望者についてはセンター試験を全員に受験させる。ア④イ⑥	B	
		生徒との面談を充実させ、適切な指導をする。イ⑥⑦	A	

※評価基準

上記具体的方策についてA, B, C, Dの4段階評価を行う。

- A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない D 達成されていない